

メンテナンスツール最新動向④

# 「工場床補修キット」 素人でも簡単に扱え、 プロ仕様の耐久性を持つ

(株)日米商会 ☎03-3738-4410  
http://www.e-nichibei.com

食品工場の塗り床専門業者の日米商会は素人でも簡単に扱え、プロ仕様の耐久性がある、超低臭の工場床補修キットを販売している。これまでは、床の改修や補修は施工業者任せにすることが一般的だったがキットの活用により、1回塗り仕上げで簡単に床の補修が行えるようになった。継続的なメンテナンスが可能になり、現在の塗り床をより長持ちさせることができる。



代表取締役  
國廣和子氏

用意。ウレタン素材の補修材で、耐荷重仕様。耐熱温度は120℃、平滑から弱ノンスリップまでの仕上げが可能だ。これら以外にも、耐熱や耐薬品、耐荷重など特殊な現場に合わせて、カスタマイズにも対応できる。「説明書を読まずに失敗したという以外には、大きなクレームは一件もない」(代表取締役 國廣和子氏)とのこと。それは、今

## 自社補修で大改修を回避

キットは床の材質や傷み具合に合わせて3種類を販売。小面積の補修に最適なのは、高濃度エポキシ樹脂の「エポタフェース」。傷のタッチアップ、むらのない平滑仕上げで、深さ5mm程度の欠損補修が可能。深い欠損の補修に最適なのは、特殊骨材入り高濃度エポキシ樹脂の「ハイパーガード・F」。重量物の走行エリアや5mm以上の深い欠損向けで、塗り厚も無制限。また、5〜10mmの欠損に最適な水性硬質硬質ウレタンの「ウレガードプロ」も

までプロが使っていた材質と同等のスペックを採用し、かつ誰もが扱いやすいものに改良しているためだ。さらに、最近では取扱説明書以外にも、「動画で具体的に硬化剤の混ぜ方や補修方法の解説を充実させている(同)という。もともと塗り床に対しては自分たちで補修するものという意識がなく、施工業者に改修してもらうのが一般的だった。だが、小規模な補修工事は、なかなか依頼しづらく、その一方で破損や穴の開いた箇所を自分たちで補修することができないため、日々傷口が大きくなり、結果



説明書やDVDどおりに扱うことで、小さな傷は自分たちで補修できる

## コスト抑制につながる 補修材の活用

ととして取り返しのつかない大改修につながってしまう工場は多い。逆にいえば初期補修を的確にできれば、大改修は回避できる可能性が高い。小さな破損や穴を手軽に直せるキットが存在すれば、自分たちでも床を簡単に補修できるという意識付けにつながる上、大改修を防ぎコストを抑えることも可能になる。実際、キットの存在を知り、「改修工事が必要なほど大きくない破損は、自分た

ちで補修することでコストを抑えられた」というケースもある。ある食品メーカーでは、自社の役員が年に1度工場の視察をする。製造担当者が、事前に工場の汚れた箇所をペンキで化粧直していた。年に1度は自分たちで塗る作業をするため「塗ること」に対する抵抗感がない。補修キットの存在を知って、3年前にHPからアクセスがあり補修キットを試してもらった。キットを使うまでは傷んだ部分を毎年ペンキで塗り直してきたが、補修キットで確実な維持管理ができるようになった。ペンキと違い、「補修した箇所は強靱な耐久性を持つため、毎年補修する必要もなくなった」という。また別のユーザーも、キットの存在を知って、同社による現場施工のレクチャールを受けたことにより、小規模な傷は自分たちで補修し、大部屋や特別な技術を必要とする難しい所だけは、同社に改修を発注するなど、使い分けることでコストを抑えられるようになったという。